

環境問題シリーズ 第27章

〔所沢環境市民の会〕代表挨拶

特別寄稿 上田 マリノ



当会の設立経緯について、広場1月号環境問題シリーズ第25章
2050 ゼロカーボンシティ所沢に掲載しております。



皆さま「所沢環境市民の会」の代表、上田マリノと申します。埼玉県立芸術総合高校の第一期卒業生で、今は柳瀬地区で6歳児の子育てをしながら仕事をしています。

所沢にはすでに多くの環境団体や市民団体があります。そういった中で、なぜ新しく環境団体を立ち上げるのか。「所沢環境市民の会」では、気候問題の原因と言われている温室効果ガス、特にCO₂を減らすこと、ゼロにすることを目標とし、「省エネ」「創エネ」「ごみゼロ」「緑と水」「農業」について活動していくところがほかと違う点です。暮らしの中で、事業の中で出るCO₂を実質ゼロにする「カーボンニュートラル」をキーワードに、すでに活動されている先輩団体の皆さまと連携していきたいと考えております。

10年以上前、私が環境問題について総合的に学びたいと思った時に、所沢でそういう場が見つからず、ネットにも学べるコンテンツもなくさまよっていました。そんな時「NPO 新宿環境活動ネット」の環境講座への参加をきっかけに、環境について学ぶ1歩を踏み出すことができました。ぜひ「所沢環境市民の会」も、学生や子育て層、子育てを終えて何をしようかなと思っている方などの環境アクションの1歩を応援する場でありたいと考えています。そして人生の先輩方々にも未来の世代のために、絶大な応援をいただきたいと思っています。



「NPO 新宿環境活動ネット」で学んだ後は、エコ検定を受け、埼玉県の地球温暖化防止活動推進員に登録しました。また、子どもが生まれるまでは「エコアイドル」という独自の方法で“明るく楽しく”をモットーに環境問題の啓発活動をしてきました。

そんな中で2015年にご縁をいただき、所沢市から市の環境への取り組みをPRする「マチエコ大使」というお役目をいただき、今は名称が「マチエコアンバサダー」となりましたが、現在も微力ながら市と市民の架け橋としてお手伝いをさせていただいております。

2015年から取り組ませていただき感じるのは、所沢市はかなり積極的に環境へ取り組んでいるということです。所沢市は2020年11月にゼロカーボンシティ宣言をし、キャンドルナイトやフォトコンテスト、最近ではマチエコリーダー養成講座など市民参加のものから内外に向けた様々な施策を行い、SNSなどを活用して情報もたくさん出しています。これからは、自治体も事業者も市民も一緒になって活動し、具体的な成果を出していくステージだと思えます。

そのために足元から行動する場として「所沢環境市民の会」をつくりました。設立に際しては、ところざわ倶楽部地球環境に学ぶサークルのみなさま他、関係団体の方々に大変なご支援をいただきました。今後も皆さまの積極的な関わりが、カーボンニュートラルな世界への確実な一歩となりますので、引き続きご理解とご支援ご参加を賜りますよう、お願い申し上げます。

*上田マリノ プロフィール

埼玉県所沢市出身、1984年生まれ。武蔵野美術大学造形学部デザイン情報学科卒。美大時代、課題制作で用済みとなった作品が次々と捨てられる様子に違和感を覚え、地球環境問題に関心を持つ。所沢市初代マチエコ大使(2015~2019年)。2020年所沢市マチエコアンバサダー就任。著書『エコ娘が聞く! 環境世代へつなぐ女性39人』(環境新聞社)